

第1回北海道ブロッククラブミーティング 2009 開催報告

* 日時：平成 21 年 6 月 28 日（日）13:15～17:00

* 会場：「北海道立総合体育センターきたえーる」講堂（北海道・札幌市）

○ はじめに

北海道札幌市において、第1回北海道ブロッククラブミーティングが開催された。

参加者は、創設支援クラブ関係者 62 名を含む計 78 名であった。

開会にて主催者より挨拶とともに平成 21 年度スポーツクラブの創設及び全国協議会等の事業に関する概要等説明があり、その後「事例発表・フロアディスカッション」が始まった。

今回は、「クラブの円滑な運営を目指して～クラブ運営の[つまずき]から学ぶ～」をメインテーマ・サブテーマとして、クラブを創設するために色々な課題でつまずいたり・悩んだりした事について発表いただいた後、事例発表者とともに参加者からも意見や課題を出してもらい、円滑なクラブ運営に向けた方策についてディスカッションを行った。

内容については、以下のとおりである。



○ 事例発表 ～テーマ「クラブの円滑な運営を目指して」～

★ コーディネーター 大沼 義彦 氏（北海道企画班員）

☆ 発表者 標津スポーツクラブ「スポット」副会長 土 井 裕 氏

◇ 大沼班員より今回のクラブミーティングを計画する上で企画班が協議した成功例より失敗例やつまずいた事例から学ぶ趣旨を説明し、発表者を紹介する。

◇ 土井氏より事例紹介

- ・最初に標津町の概要説明。人口 5,870 人、その 3 倍の乳牛、日本有数の秋鮭の水揚げを誇る。（高齢化率～23%）
- ・スポーツの取り組み状況は、昭和 62 年に「スポーツの町」宣言し、町民皆スポーツを目指し諸条件を整備するためスポーツ振興中期計画を策定。昨年、宣言 20 周年とし、新スポーツの町宣言を行った。
- ・スポーツクラブの取り組みは、平成 12 年に体育指導委員の先進地視察等から学び、交流ある士別市の多寄地区と同規模の川北地区をモデルとして平成 14 年から toto 事業申請し、マスタープランを作成、助成 2 ヶ年で創設できるよう準備を進めた。
- ・平成 16 年 11 月、行政主導で進めた設立準備も、役員の意識が低く、スポーツ団体や愛好者も現状に満足して設立を断念した。その経験を生かして、標津市街地で手がけた「すぽっと」SCは無事立ち上がった。

質疑 Q 川北地区の断念した大きな理由は。

A やはり、多寄をモデルにしすぎて、現状に満足していた住民を喚起するまでにならず、事務担当を準備段階の行政主導から脱却できなかった。

○ 事例紹介及びフロアディスカッション

※～サブテーマ「クラブ運営の【つまずき】から学ぶ」～

★ コーディネーター 伊 端 隆 康 氏（北海道地方企画班員）

発表者 BayWalkCommunityはこだて 小 澤 貢 一 氏
大楽毛（釧路市）元気スポーツクラブ 土 岐 政 人 氏
eスポーツクラブ（江差町） 三 好 泰 彦 氏

- ◆ 伊端コーディネーターより事例紹介やフロアーからの質疑等進め方を説明し、一人5分以内の発言を徹底する。
- ◇ 小澤氏よりクラブ設立1年を経過し、クラブ運営について説明する。全国的にもめずらしい海・港をベースにして、カヤックやボートセーリング等を活動の主にししながら、運営委員が退職者で高齢なため健康志向が強く、ノルディックウォークや歩くスキーなどの軽スポーツも取り組んでいる現状を報告する。当初は各種スポーツ教室の開催等継続性が薄いため、サークル化したい考えや、函館市内の3クラブとも連携して事業を共同開催している。
- ◇ 土岐氏よりクラブの設立経過が紹介される。昭和58年に設立された大楽毛スポーツ推進協議会が、平成15年に総合型クラブとして移行し結成された。組織は、ソフトバレー・ゲートボール・パークゴルフ・ミニバレーのサークルが集まってのクラブで会費はそれぞれのサークルで徴収している。役員は体育指導委員、スポーツ推進員等で構成し、市の補助金や町内会補助金等300千円予算規模で運営されている。
- ◇ 三好氏よりクラブ設立の経過について紹介される。江差町では、平成13年度に檜山教育局からクラブ育成の勧めもあり、行政主導で「総合型クラブ育成モデル事業」に取り組み、平成16年3月に町体協加盟団体や学校開放利用団体6団体を中心になってeスポーツクラブを設立した。
- ◆ 次にクラブの現状と課題について紹介をいただく。
- ◇ 小澤氏より今困っていることとして、自主財源の確保に不安があり、事業拡大につれてマンパワーの不足が生じて埋蔵人財の発掘を試みている。協賛会社の経営悪化によりホームページが中止になり、広報活動が行き詰まっている。
- ◇ 土岐氏より、現状には非常に満足しているが、助成金（市教委）や人材（クラブマネージャーは市教委担当者）が滞った場合のみ心配がある。直接関係ないが、懸念している点として、高校の統廃合で、クラブに近い道立高校が廃校になり、まだ使える学校施設（グラウンド・体育館等）が市に貸し出ししか売却の話題も結局煮詰まらず、クラブで活用する案も届かず現在は施設の周りをフェンスで囲う工事をしている。非常に残念で、今後も出席者の近くでも同じような状況が発生する可能性が高いので、情報を提供するためにも参加した。
- ◇ 三好氏からは行政主導で立ち上げたクラブも担当者の異動で活動が停滞し、平成19年には、行革で老朽化した体育館の閉鎖によりスポーツクラブの活動場所が他団体に追いやられて、拠点も無くなり、現在は活動が中止になっている。行政主導の失敗例であり、今後は住民の一人として

再活動できるよう努力したい。

◆ 一度質疑を受け付けた。

◇ Q 今回の3事例は、総合型スポーツクラブとしては言えないのではないかと。単一種目やサークル活動の寄せ集めて的に見える。

A (根本課長) 公益性、公共性のある事業を展開していくことにより、必然的に多様化となって行くことから、創設準備の段階で単一種目のクラブやチームであっても総合型クラブ化への取り組みを推奨している。全国2,700余のクラブはそれだけの個性や活動内容があり、一つとして同じクラブはない。枠にとらわれないように。



Q 複数種目に会費の徴収等、創設支援事業ではかなり制約があると思う。

A 助成金の性格上、創設支援事業としての制約は当然あるが、今回の紹介のように、行政主導で立ち上げたクラブやサークルが移行して組織化したクラブ、スポーツ少年団が母体になったクラブ、また委託費や助成金を受託していないクラブも多くあり、その立ち上げ方や運営の仕方は、様々である。

◇ Q 3クラブの組織や指導体制及び施設の確保等詳細に説明願いたい。

A 事例発表者から資料等によりそれぞれ指導者の確保や拠点施設等について紹介した。

◆ 最後に事例発表者からつまずきから学んだ内容をまとめてもらった。

◇ 小澤氏 取り組み当初では思いもよらない、財政的な厳しさもあるが、教室等のネーミングやちょっとした工夫（平日の活用等）で参加者が増えたりする手応えもある。クラブにはスポーツ活動とともに地域コミュニティを大切にする理念もあり、会員に支えられながら、あせらず、急がず、あきらめずクラブ運営に取り組んでいる。

◇ 土岐氏 説明したように本クラブは現状ではあまり困っていないが、将来に対する不安はある。運営資金として、会費徴収等工夫したい。ただ、廃校の活用はぜひ、皆さんも次は自分の高校と認識して無駄を無くして活用できる発想を今から持っていてほしい。

◇ 三好氏 eスポーツクラブは活動休止だが、地域ではパークゴルフ愛好会が施設も自ら造り、管理運営して会員を増やしている組織もあり、総合型クラブへ移行できないか、今回の出席から持ち帰って整理したい説明で終わる。

○ まとめ

本日のまとめとして、課題となる理念の確立、共有や財源の確保をテーマとして次回クラブミーティング等で協議することとした。

(報告：北海道ブロック地方企画班員 足立 直人)